

伝統文化のオーラル・ヒストリーの研究 ー八重瀬町友寄の獅子舞(地域行事)を通してー

神里 直子*¹、齋藤 陽子*²

沖縄では独特の獅子舞が行われ、悪霊を祓い、弥勒世(ミルク世)を招き、五穀表情・子孫繁栄、を願い、三線や太鼓の演奏に合わせて舞い、沖縄の各地で受け継がれている。

獅子舞の型や体の特徴は沖縄県内でも各地域によって異なり、約180の獅子舞があるといわれ、特に本島中南部や八重山地方で盛んに演じられている。その一つ、沖縄県八重瀬町友寄に伝わる獅子舞も集落の守護神として大事に取り扱われ、村の行事では主役として登場し、全国的には伝統芸能の後継者不足に悩む地域もあるが、友寄においては誇りである獅子舞や棒術の型、技もしっかり受け継がれている。

本研究では、この状況を次の世代に伝える教材として開発した。

(キーワード) 伝統文化、獅子舞、友寄、オーラル・ヒストリー、社会、総合学習

1. 研究目的

沖縄県内では獅子舞は地域の守護神として大事にされ、その形や舞の型には独特の特徴がある。獅子舞の記録が先の大戦で消失し、型の継承などは伝承として伝えられている地域も多い。友寄でも獅子舞についての資料は少なく、首里王府より御拝領*³された獅子頭も大戦において消失した。戦後は獅子舞も途絶えたが、地域の人々の願いをうけ昭和43年に友寄の獅子舞は復活した。

本研究では、このような伝統的な行事を今の子ども達に教育的に伝えていくために、獅子舞を保存・継承するために行われている活動を伝えていく、という視点で古老の伝承記録をオーラル・ヒストリーとして残すことにした。

また、散在している友寄の獅子舞に関する資料を出来る限り集め、歴史的・社会的な背景を紐解いていくための資料としてデジタル・アーカイブを行う。

それは単なる地域資料として残すのではなく、踊りの動作や意味などを多様な視点で見直したりするなどして、その中から人々の心に伝えられてきた審美性や伝統的

な美観を感じ取り、伝統・文化の心を伝えるための教材として、様々な教科において誰でも自由に利用しやすい形で教育的利用が可能な素材となるよう、その保管方法も研究を進める。*⁴「首人や社上人より物をいただく事(三昭堂大師様より)」

2. 友寄の獅子舞に関する意識調査

友寄在住の小・中学生と、友寄獅子舞保存会の方々に「友寄の獅子舞に関する意識調査」を行ったところ、興味深い結果が浮かんできた。意識調査からは友寄の獅子舞をほとんどの人が知っているのに対し、由来については「分からない」と答えた人が78.8%もいた。獅子舞保存会会員の、約半数が由来については「分からない」と答えている。

このような結果から、友寄のほとんどの人は友寄の獅子舞を知っているが、実はその奥深い部分までは中々、地域の人々に理解されていないという実態がみえてきた。



図1 御願をうさげる*⁴

*¹ KAMIZATO, naoko 豊見城小学校 *² SAITO, Yoko 岐阜女子大学

3. 研究仮説

教育基本法が改訂され、前文に伝統・文化が明示され、学習指導要領の主な改善内容の中にも位置づけられた。

そこで沖縄の伝統・文化の一つ、友寄に伝わる獅子舞を教材として、その心を学ことで、生きる力や生き抜いていく力を、実感を伴わせながら学ぶことができないかと考えた。

獅子舞には、舞の前後の御願の儀式や、獅子を取り扱う作法、獅子舞を守っていくための多くの定めがある。このようなことが何故行われているのかを知ること、地域を愛する心や、獅子舞を通し地域が一体となる心強さ、地域の一員であるという、生かされていることへの喜びを感じ取ることができるのではないかと考えた。

そのため、出来る限り教材作成の素材となる資料を収集し、オーラル・ヒストリーを主として、文字や音声情報、静止画や動画など、利用者が色々と付け加えながら、メディア利用の多様な選択ができるよう、伝統・文化が多様な教育的利用が可能な素材となるよう総合的な視点で検証し、資料の保存・利用に関する新しい教育の一つの方向性を探る研究を行った。

4. 友寄の獅子舞のオーラル・ヒストリー

(1) 友寄の獅子舞に関する意識調査

友寄の獅子舞に関する意識調査を行った。

その結果から友寄地域では、大事にされている獅子舞は、ほとんどの人が知っていたが、その由来やなぜ演じられているかなど、奥深い部分まで地域の人々に理解されていないという実態が伺えた。

そこで、学校教育においても伝統・文化の心の継承が重要視されていることから、友寄の獅子舞に関する資料のデジタル・アーカイブを行い、人々の思いや願いをオー

ラル・ヒストリーで保存した。

(2) 対象候補者の選定と合意

友寄の獅子舞のデジタル・アーカイブにあたり、聞き取りの対象者を、昭和11年に生まれ現在まで友寄に居住、戦前戦後のことを記憶され、沖縄の伝統・文化についてもよく勉強されている金城勝氏とした。金城勝氏は友寄の区長職を6年間務め、近隣の学校において友寄の獅子舞についての講演や、獅子舞や棒術の型の指導などを続けている。金城勝氏の合意を得て、オーラル・ヒストリー作成のための聞き取りを行った。

(3) 事前準備

聞き取り調査は、あらかじめ作成した質問項目に沿って行なったことで、「不必要な質問等をしない」、「話者の意思に反して無理に質問項目の通りに進行しない」などの点に配慮できた。

(4) 撮影概要

撮影に際しては、「撮影許可書」と「肖像権使用についての承諾書」で撮影の承諾を得て、八重瀬町字友寄の金城氏の自宅で行った。

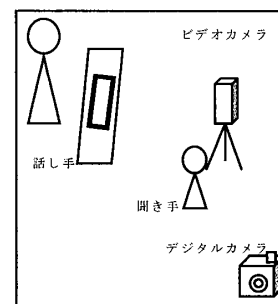


図2 撮影機器設置状況

話者を撮影する際、表情から伝わる情報とあわせて、説明する身振りや手振りも大切な情報源だと考え、デジタルビデオカメラを、三脚で固定し話者の上半身が映るように設置し、撮影の様子がわかるよう聞き手の後方よりデジタルカメラで撮影を行なった（図2）。

(5) テープ起こし、編集・訂正

音声の文字化を行い、この文章を元に伝統・文化の学習教材の素材として、オーラル・ヒストリーを作品化していく。

今回は特に小・中学生が、伝統・文化の

*1 KAMIZATO, naoko 豊見城小学校 *2 SAITO, Yoko 岐阜女子大学

心を学ぶ資料として、教材化に適するよう検討し整理した。小・中学生には理解が難しい言葉や方言、分からない事柄については自分たちで調べ、聞き取り調査することも大切な学習であると考え、なるべく話された状態のオーラル・ヒストリーを提供した。その話の中から「①友寄の獅子舞の由来についての資料」「②友寄の獅子舞の現状と課題についての資料」として利用できる伝統・文化の資料として素材を選択した。

5. 獅子舞の教材開発

(1) マルチメディアの学習での活用 —映像、音声、図形、文字情報—

教師が利用する教材の構成として、何が必要か、が課題である。その1つに教師はどのようなメディアを、教材として利用するかの調査結果を次に表で示す。

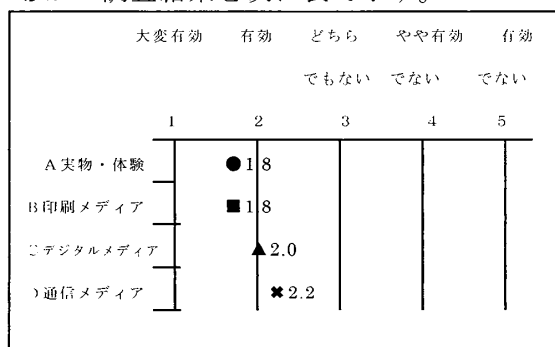


表1 教師のメディア利用希望調査 (2012.5 文化情報研究 Vol. 14. 2)

このように、社会科の資料調べなどでは、いろいろなメディアの利用が希望されているため、本研究ではオーラル・ヒストリー、獅子舞の取材の構成として、映像、音声、文字（実物、文化活動）を教材環境として構成を行った。

(2) 獅子舞に関する資料

①友寄の豊年祭のオーラル・ヒストリー (動画・文字情報の保存)

聞き取り期日 平成 24 年 11 月 18 日 (日)
場 所 八重瀬町字友寄
話 者 金城 勝氏 77 歳

(区長在職 平成 12 年～平成 18 年)

聞き取り者 神里 直子

○金城氏が語った話の主な内容

- ・友寄の豊年祭は村の和を作り地域の結束を固める。また琉球王より御拝領された獅子を舞台上で舞わせ魔除けを行う。豊年祭は約百三十年位前から行われ、途中戦争で途絶えた時期もある。
- ・古典的な要素の強い友寄の獅子「舞」を守るため、型を崩さず継承している。地域の子供達も獅子舞を引き継いでいくことを嬉しく思う。地域で大事にしている獅子舞を主体に、みなで作り上げているという点で、一番親しみやすいのが友寄の獅子舞。これからは朗らかに続けて欲しい。

②第 8 代 友寄獅子舞保存会会長

町田 学氏 インタビュー記録

(動画・文字情報の保存)

聞き取り期日 平成 24 年 10 月 7 日 (日)
場 所 八重瀬町友寄児童館
話 者 町田 学氏
聞き取り者 神里 直子
撮 影 者 儀間 盛顕

○町田氏が語った話の主な内容

- ・1828 年頃、琉球王より三味線の弾き手・玉那覇のタンメーへの褒美として獅子頭を御拝領。首里の汀良から舞の型を習い友寄独自の型になった。友寄の豊年祭は獅子加那志のお祝いという点は、他地域との違い。
- ・獅子舞の舞手になるには、動きが完全に友寄の獅子舞であることと、先輩方の判断による。昔は村の守り神と
いうことで



図3 友寄独自の型が受け継がれる

*1 KAMIZATO, naoko 豊見城小学校 *2 SAITO, Yoko 岐阜女子大学

字外に出せなかったが、今は御願し獅子頭のレプリカは持ち出し可能。

- ・友寄の獅子舞いは「獅子『舞い』」で踊りの1つ。何回も同じ動作が繰り返され、地域との違いをアピールし、獅子舞を受け継ぎたい。

③友寄の獅子舞について西門小のタンメー(金城文助氏)の口述記録

(文字情報のデジタル化)

聞き取り期日 平成6年5月7日(土)

場所 那覇市長田2丁目の8号

語者 金城文助氏 84歳

聞き取り者 金城孝善、神里松吉、町田光信、知念昭光、

金城照雄、金城紀和、知念恵美子

○金城文助氏が語った話の主な内容

- ・西門小のタンメーが誕生した時代は、今から約210年～220年位前。首里城において三線



図 伝統を受け継いでいく

演奏者として仕え、城中における同氏の名称は玉那覇のタンメー。親雲上の位をさずかる。

6. おわりに

本研究では友寄の「獅子舞」を取りあげ、学校教育の場で伝統・文化の心を伝える教育的利用が可能な素材となるよう、主にオーラル・ヒストリーを行い、資料等のデジタル・アーカイブすることが目的であった。

資料の保存・利用に関する新しい教育の一つの方向性を検証し、人々の思いや願いがわかるような構成で研究を進めることができ、新しい教育資料として提供できたのではない。

今後、このようなオーラル・ヒストリーやデジタル・アーカイブされた資料がどの

ように活用されていくかは、担当する教師に関わる問題であり、慎重な利用が必要となってくるであろう。

謝辞

本研究をまとめるに当たり、岐阜女子大学・後藤学長、主査・斉藤陽子先生には終始あたたかい激励とご指導をいただきました。また八重瀬町友寄の皆様、聞き取り調査・撮影には金城勝氏、町田学氏に、友寄獅子舞保存会会員の皆様・白川小学校・東風平中学校の児童・生徒の意識調査への協力、心より感謝申し上げます。岐阜女子大学、沖縄サテライト校の先生方のお力添え、共に協力し研究に励んだ仲間の支えがあり論文としてまとめることができました。ここに、ご協力下さいました皆様へ深く感謝の意を表し、謝辞といたします。

参考文献

- 1) 安倍能成「米国教育使節団に対して(あいさつ)」「歴代文部大臣式辞州」文部省(1969)
- 2) 第92回閣議における教育基本法案の審議、文部省(1960)「教育基本法関係資料」
- 3) 田中耕太郎「教育基本法の教育哲学的考察」「理想」第307号(195812)
- 4) 仲宗根将「『宮古教育基本法』宮古の歴史と文化を歩く」沖縄県歴史教育者協議会宮古支部(2006.6)
- 5) 沖縄県教育委員会「沖縄の戦後教育史」、沖縄県教育委員会(1997)
- 6) 堀田洋子「中央教育委員会会議録の紹介」、沖縄県公文書館研究要、第10号
- 7) 木田宏「木田宏教育資料」1～15 岐阜大学教育学部附属カリキュラム開発研究センター・岐阜女子大学 文化情報研究センター・松下 視聴覚教育研究財団(1966-2004)
- 8) 田中社一郎監修 教育基本法研究会編著逐条解説 改正教育基本法(第一法規株式会社)
- 9) 沖縄カリキュラム開発研究会「沖縄カリキュラム開発研究」Vol.1 No.1(2011)
- 10) 「オーラル・ヒストリー」 御厨貴著 中央公論新社(2002)
- 11) 友寄文化委員会(2003)
- 12) ウィキペディア フリー百科辞典
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%A1%E3%82%A4%E3%83%B3%E3%83%9A%E3%83%BC%E3%82%B8>
- 13) 三昭堂 大辞林
- 14) マルチメディアの発展に対応した文教施策の推進について 平成7年1月マルチメディアの発展に対応した文教施策の推進に関する懇談会の報告
- 15) 後藤忠彦「教材開発特講」岐阜女子大学大学院文化創造額研究科
- 16) 後藤忠彦 編著「デジタル・アーカイブの新しい研究」岐阜女子大学 (2012.4)

*1 KAMIZATO, naoko 豊見城小学校 *2 SAITO, Yoko 岐阜女子大学